国指定・重要無形民俗文化財

比婆荒神神楽

現地公開

竜押し

本山三宝荒神大神楽
名／殿迫名本山三宝荒神

と　き／平成14年11月22日(金)～24日(日)

ところ／広島県比婆郡東城町大字森
小当屋　松崎守登氏宅
大当屋　八幡多目的研修集会所

主催／比婆荒神神楽保存会
共催／八幡大神楽実行委員会・東城町・東城町教育委員会　後援／財団法人　八幡会

比婆荒神神楽

概　　説

比婆荒神神楽は本山三宝荒神に奉納する祖霊信仰の神楽で、鎮魂の要素を多分に残しているのが特色といわれるが、とくに託宣（神がかり）の神事を伝えていることは全国でも貴重な存在とされている。このため、昭和40年10月29日に県の選定をうけ、さらに昭和46年11月11日に国の“記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財”として選択され、昭和54年2月3日重要無形民俗文化財の指定を受けた。

行なわれる時期

式年の大神楽は、33年（あるいは17年、13年、9年、7年）目の晩秋から、翌年の初春にかけて行なわれる。

行なわれる地域

ひろく比婆郡内全域で行なわれる。

保存団体

比婆荒神神楽保存会

行なわれる場所

古くは本山三宝荒神社附近の田畑に天地根元造りの神殿（こうどの）を新築して行っていたが、近年は神社の社殿または当屋（大当屋〈神殿・舞当屋〉小当屋〈遊び当屋〉で行っている。

由　　来

発祥年月は不明であるが、現存している最古の文献が、慶安4年（1651）の神楽能本（栃木宮脇家文書）であることからみて、それ以前そうとう古くから伝えられてきたものらしい。

この神楽は、古くから本山三宝荒神に奉納する、いわゆる荒神神楽として行なわれてきたことが、史料によってうかがえる。またこの地域には中世の名残りとみられる「名（みょう）」のかたちがそのまま残っていて、名の信仰の中心として本山三宝荒神が存在する。本山三宝荒神は、いわば名全体の祖霊神であり守護神である。つまり、本山三宝荒神は直接的な産土神としての性格をもち、その信仰はひじょうに厳しいものがある。そのため毎年おこなわれる小神楽と、式年の大神楽は名内の人びとがもっとも盛大にもっとも厳粛に行ってきた。

比婆の荒神神楽は、古くはすべて神職が奉仕していたが、いまでは神職と民間の人との共同奉仕となっている。

式年大神楽の古式による次第

日程	行　　事
初日	神職参集　当屋ぎよめ　かまどざらえ　土公神迎え　小神迎え　荒神迎え
初夜	七座神事（打立て・曲舞・指紙・榊舞・猿田彦舞・ござ舞・神迎え）土公神遊び
二日	小神遊び
二夜	七座神事　荒神遊び
三日	神殿ぎよめ　神殿移り
三夜	七座神事　白蓋引き　能舞（猿田彦・岩戸・八重垣・国護り　八幡・龍宮・天孫記・荒神・大山など）
四日	王子舞（五行舞　竜押し　荒神納め　神送り
四夜	へっつい遊び（手草舞・土公祭文・宝廻し・恵比須の船遊び・餅取り〈灰神楽〉）

公開日程

日　程		行　　事
22日(金)		小当屋（遊び当屋）松崎守登氏宅 大当屋（神楽・舞当屋）八幡多目的研修集会所で準備
23日(土)	9:00	関係者集合・準備
小当屋で	12:00	湯立神事
	13:00	荒神迎え　七座神事（打立て・曲舞・榊舞・猿田彦舞）土公神遊び
	19:00	神殿移り
以後 大当屋で	20:00	七座神事（打立て・曲舞・指紙・ござ舞・榊舞・猿田彦・神迎え） 祝詞　白蓋引き　能舞（岩戸・国護り・八重垣）
24日(日)	～5:00	王子舞（五行舞）
	6:00	竜押し
	7:00	荒神納め（神がかり神事） ＜休憩＞
	9:30	へっつい遊び（手草舞・土公祭文・宝廻し・恵比須の船遊び・餅取り＜灰神楽＞）
	11:00	行事終了

大神楽のあらまし

湯立神事	当屋の庭に湯釜をすえ、四方に笹をたて、しめをはり、神事を行い湯笹で当屋の内外をきよめる。
荒神迎え	神職が荒神社におもむき神霊を迎える。
七座神事	
打立て	太鼓・笛・手拍子を用い神楽の楽合せを行う。
曲舞	扇と幣をもち神楽の基本舞で座ならしを行う。
指紙	役指しの舞　竹串に半紙をさしたものをもって舞う（古くは役を指名した）
榊舞	榊と鈴をもって、神座及び参集者をきよめる。
猿田の舞	初め案人が出て猿田彦の神徳を述べて舞をまったあと鼻高面をつけた猿田彦が扇と榊・太刀をもって舞い神座をきよめる。
ござ舞	鈴・扇・ござをもって舞い最後にござとびをしてござを神前に敷く。
神迎え	神職が衣冠束帯で神勧請の神事舞をまう。
土公神遊び	神柱の神職と向合って名内の氏子が着座し、神米を盆の中に入れ神籤を伺い吉凶を告げる神事。
神殿移り	小当屋より高張・明松・箒・白杖といった順序で行列をして神殿へ移動する。
白蓋引き	高天原をかたどった白蓋を一本の綱で上下左右と神殿一ぱいに大きくゆり動かし、天地鳴動するなかで神の降臨を願う。
能舞	神話にもとずいてつくられた物語風な舞である。
岩戸の能	須佐之男命の乱行によって天の岩戸にかくれられた天照大神を思兼命のはからいで手力男之命が岩戸を開いてお出しする。
国譲り能	天孫降臨に先立って建甕槌命と経津主命の両親が天降り大国主命に国土の返還を求めたが、いったん拒否され稲背脛命の仲裁と事代主命の協力で国土返還が実現する。
八重垣の能	八岐大蛇に娘をつぎつぎにとられ最後に残った櫛稲田姫をとられまいとしてなやんでいる足名槌、手名槌の老大婦を須佐之男命が助け、松尾明神や室明神に酒をつくらせ、大蛇に飲ませて退治し宝剣を得、櫛稲田姫と結婚する。
王子舞（五行舞）	盤古大王が、月日、方角、五行、色の配当を太郎（春、青色、東方、木性）二郎（夏、赤色、南方、火性）三郎（秋、白色、西方、金性）四郎（冬、黒色、北方、水性）の四王子に行なったあと、五郎の王子が生まれ配当を求めて争った結果四季、土用と中央、黄色、土性の配分を得る。
竜押し（綱入れ）	藁製の大きな竜を氏子多数がかついで大当屋の門田に向う、田の入口で本山荒神勢の神職と問答した末、入口の注連縄を太刀で切り田の中に入り神職をとり囲み竜を巻きつける。神人共に和楽する賑やかな行事である。
荒神納め（神がかり・託宣）	竜押しがすんだあと、竜を神殿に運び、神殿の東西の柱に引渡して張り、神職が白木綿を竜にかけて押すうちに、神がかり状態となり託宣を行う。
荒神送り	藁櫃の中に鎮め物を納め本山荒神社に神霊をもどしたあと、祠の地下に埋める。
へっつい遊び	大当屋のイロリを中心として演出する狂言風のもので、つぎの五段の能をいう。
手草の段	年神の能ともいい、笹と鈴をもった翁、媼がまう、まい終り年俵に腰をかけているところえ、花守と称する老翁がでて年神へ神饌を供する。
土公祭文	炉の四周及び中央に五行旗を立て、神職連座して土公祭文を唱える。
宝廻し	宝を廻そうやなと唱えながらイロリの周囲に連座し、最初に小敷の中に１文銭を入れたものを勘定しながら廻す。倍勘定で廻していき、勘定できなくなるとこのくらい沢山金がたまったと喜ぶ。
餅取り（灰神楽）	ひょっとことおかめが擂木と杓子でイロリの巾の餅のうばいあいをする。
恵比須の船遊び	新しいむしろで船形をつくり、大当屋の主人をのせ、伊勢音頭ではやしながら恵比須柵の下までひいて行く、神主が障子をバタバタはたいて鶏声を発するとすべて千秋万才と神事は終了する。